

安全と環境を考えるニシオの広報誌

安全くん

2004

Vol-3

69



それ行け!! 安全くん

「安全くん、ハッとしてヒヤリ」の巻

- 解説コーナー
「クレーン機能付油圧ショベルの留意事項」
「『ヒヤリ・ハット活動』とは？」
- 世の中 見たトコ勝負 VOL.9
「居場所はお家? お外?」
- NISHIO TOPICS
ホームセンター「**コナンPRO**」にレンタルコーナー開設!
- お知らせ・情報コーナー
「建設機械の排出ガス規制Q&A」

表紙写真:
姫路城
(西の丸より)



インターネットホームページ
「安全くんネット」もご覧ください。

<http://www.anzenkun.nishio-rent.co.jp/>

〈この広報誌は、再生紙を使用しています。〉

それいけ!! 安全くん

画 中村よしのぶ

連載 その69

「安全くん、 ハッとしてヒヤリ」の巻



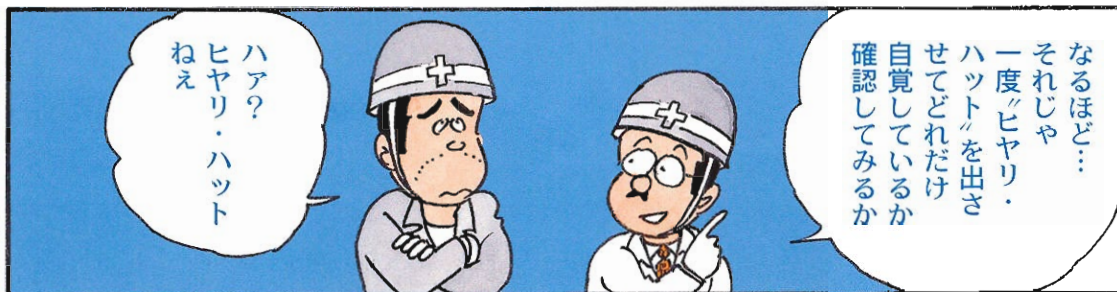


解説コーナー

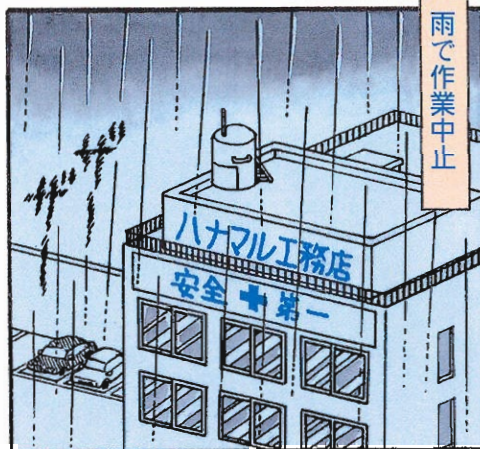
クレーン機能付油圧ショベルの留意事項

- 掘削とクレーン作業を1台でこなすクレーン付油圧ショベル。従来、ワイヤーの巻上げにより吊荷を行うクレーンに比べ、屈曲ジブ式のクレーン付油圧ショベルは、ブームの起伏で上げ下げするので、その負荷はアームとブーム部分に掛かります。長期で使用した場合は、アーム部分に亀裂や異常がないか確認してください。また、無理な姿勢での吊り作業や横引き等は事故や機体を損傷させる原因になります。
- クレーン作業をする際は、足場についてもクローラを過信せず、水平で強固な場所で行うこと。傾斜地や凹凸の激しい不整地では、荷の斜め吊りや荷振れによる事故を招きます。注意してください。
- 格納式フックは、格納を忘れたままでもショベル作業を行うと、フック部がバケットにあたりフック部、スィベル部、連結ピンが損傷し、そのまま吊り作業を行うと荷の落下につながり危険です。
- ブームシリンダー又はアームシリンダーがストロークエンド近傍になる姿勢は、安全装置の検出精度が悪くなり転倒する恐れがあるので避けてください。最大掘削半径＝クレーンの最大作業半径とはならないので必ず作業範囲図を確認してクレーン作業をしてください。
- 機械の操作には、掘削とクレーン作業の各々に運転資格が必要です。また年次検査として掘削装置＝油圧ショベル部分は特定自主検査、クレーン部分は定期自主検査の両方が必要となります。NISHIOでは検査済の証として特自検の標準とNISHIOの定期検査済証を機械へ貼付ております。





会議室にて



解説 コーナー

「ヒヤリ・ハット活動」とは?

「ヒヤリ・ハット」とは、ヒヤリとかハッとした出来事のこと、事故には至らないものを指します。ハインリッヒの法則では、1件の死亡・重傷災害が発生したとすれば、それと同じ原因で29件の軽傷災害を起こし、同じ性質の無傷害事故を300件伴っているとされています。つまり、この300件がヒヤリ・ハット事例ということになります。

最近、建設や土木だけでなく、医療の現場でも「ヒヤリ・ハット」が注目されています。例えば、「患者誤認ミス」と「薬剤ミス」。同じ病室で同姓、同名、苗字が似ている、外見が似ている、治療内容が似ている場合などに「患者誤認ミス」は起こりがちです。また、似たような薬品名、アンプルの色・形状の類似による混同などが「薬剤ミス」を引き起こすことがしばしば報告されています。

●「ヒヤリ・ハット活動」実施のための重要ポイント

①早期の報告

記憶は時間が経つとともに薄れる。可能な限り早く報告を。

②報告者の保護

報告内容によって責任追及をせず、安全活動のみに使用する。そうしないと、報告が意識的に抑制される可能性がある。

③早期の改善

報告しても改善が行われなければ、参加者の動機付けにも悪影響が及ぶ。根本原因に立ち返り、早期の対策を行うこと。

④情報の早期流通

「ヒヤリ・ハット」情報は、同種の作業を行っている人に早期に流し、再び同じことを繰り返さないようにする。

ガンさんのワンポイントレッスン

『みんなも同じ。だから “ヒヤリハット”が必要なんです。!』

少し前に「公園の遊具の不良で児童の指を切断」
それも、同じ日に同じ遊具で2件発生するという
事故がありました。ニュースでも、遊具の管理点
検とともに関係先への連絡や緊急措置につい
ても問題にっていました。

情報の伝達とすみやかな対応を怠った結果
といえます。



私たちの回りでも、ちょっとした報告や措置を
怠り、危険な目にあうことも多くあります。たと
えば、「言わんこっちゃない」「そうなると思ってた」と、後になって言っ
たり、言われたりしますよね。また、「そんなドジをするのは自分だけ」
と思ってた「よく似たやつがいるもんだ」「へえ、みんなもそうじゃないか」
という言葉もよく使います。つまり、このような言葉自体、「自分の経験
やいろいろ思ったこと、考えたことは同じ立場の人と共通するケースが
多い」という証明になります。

逆に、「そんなヤツはおれへんで」とか「おめえさんだけだよ、そんな
ドジは」といった人が、キッチリ同じ目にあっているということもよく
あります。

なかなか表に出にくい自分の経験を“ヒヤリハット”で情報として
伝達し、みんなでもよく似た経験を出し合い解決策を考えることで、安全
面だけでなく仲間としての結びつきも強くなるでしょう。積極的に、こ
のシステムを使って自分と仲間を守ってください。



SAFETY CHECK

セーフティ
チェック

玉掛用具の安全①

～ワイヤー編～

クレーン作業で、使用する玉掛ワイヤー。その不良により吊荷が落下したり、吊荷と他の物体等とに挟まれたりする災害が発生し
ます。今回は玉掛ワイヤーについて安全のポイントをまとめてみます。

□玉掛作業の災害

玉掛ワイヤーに関連する事故の特長と原因は、①ワイヤーが切
断し、荷が落下→荷の破損・下敷き=荷重オーバー・ワイヤー
の選択ミス、②荷がすれ落ちた→荷の破損・下敷き=玉掛方
法のミス・玉掛用具の選択ミス、③ワイヤーと荷の間に指を
挟まれた→負傷=合図のミス・玉掛者の不注意です。また、降
ろした荷が崩れた→下敷き・挟まれ=荷の置き場の不良・荷の
置き方の不良も考えられるので注意しましょう。

□使用前点検

ワイヤー本体部とアイ加工部は、目視で損傷状況をチェック。
どれか一つでも廃棄基準に達していれば、そのロープは廃棄し
ましょう。

①ワイヤーロープの安全係数…6以上(ク則213)

②1より間で素線の数10%以上の断線は使用禁止
(ク則215)

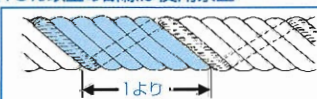
キンクしたもの、著
しい形くずれ、腐食が
あるもの

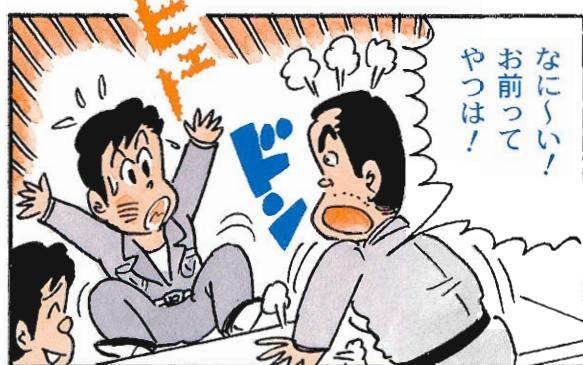
また玉かけ用具でス
リーブ(圧縮止め)部分も点検が重要です。

①スリーブに著しい曲がり、つぶれ、きずがあるもの。

②スリーブが摩耗して、元の厚みの2/3以下になったもの。

※玉掛作業は、吊り上げ荷重1t以上のクレーン等を使用する
場合の玉掛け作業には技能講習が必要です。





解説コーナー

「ヒヤリハット よ〜く考えよう、命は大事だよ」

▽「ヒヤリハット」の報告データを分析された資料を見ますと、次の2つに大別されるそうです。

- (1) 現場が不安全的状態にあった (約20~30%)
- (2) 本人や相手の不安全的行動によるもの (約70~80%)

▽そして、さらに不安全的行動の原因もこの4つの類型に分けられるそうです。

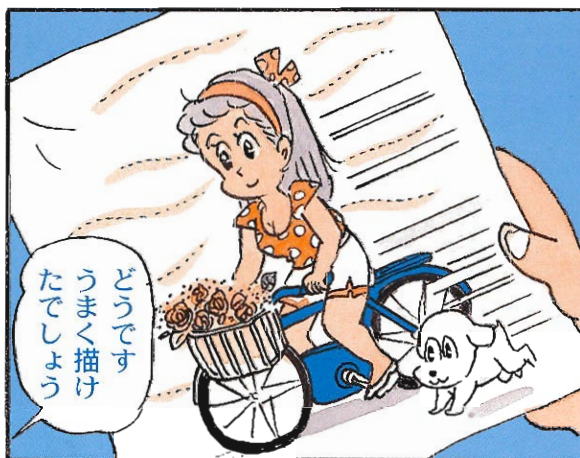
- ①見落とし = よく見えない、気が付かない (約24%)
- ②判断ミス = 深く考えない、大丈夫と思った (約50%)
- ③作業ミス = 無意識に手足が動いた、バランスをくずした (約20%)
- ④気持ちで = カッカ、イライラ、心配事など、いやな気分 (約6%)

つまり、自分の判断ミス (= 考えることを避けた) を減らせば、ヒヤリハットの発生件数も少なくなるはず。

▽でも「よ〜く考えよう」といっても、作業中に立ち止まってじっくり考えるなんて「ムリムリ」、と言われるのがオチ。しかし、その場面で「危険はないか」「どうすればよいか」を考え判断することは、余程特殊な状況、または初めての経験でない限り、日常的な経験や普段の安全活動で考え判断する材料が頭に入っているはず。状況把握と分析、判断の繰り返しで人間は生活しているといっても過言ではありません。ましてや、現場では命にかかわるケースの多いだけに、不断からとっさに正しい判断ができるように訓練しておく必要があります。

▽やはり、危険予知訓練や皆さんの経験からのヒヤリハットでの知識、安全ミーティング、指差呼称、朝礼などで培っていきかないよう。様々な形で安全活動が行われていますが、最初のデータにありますように、70~80%を占める自分たち自身のミスを減らすためのものです。疎かにせず取り組んでください。





SAFETY CHECK セーフティチェック 玉掛用具の安全② ～クランプ編～

玉掛用具のクランプは用途に合わせ選択が必要です。鉄骨とコンクリートはその用途によりクランプの種類が多種ですが、吊り方、吊荷の素材、荷重で最適な機種を選択してください。また使用方法を誤ると吊荷落下等、大きな事故を招くので使用前点検は忘れずに行ってください。

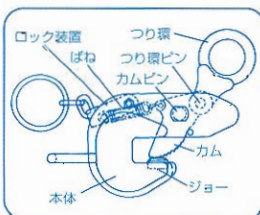
□かみ込む不良による事故

鉄鋼を挟み込む場合、カム（歯板）部分に経たりや吊り物が塗装してあるとかみ込み部分が滑り吊荷の落下事故を招きます。また土木現場や屋外では土や異物も噛み込む恐れがあるので使用前は必ず清掃し外観のチェックも大事です。

□クランプの使用点検

使用前点検のポイントをまとめてみましょう。

本体	変形、亀裂
カム（歯板）	摩耗、目詰まり、歯コボレ
各ピン・ボルト類	摩耗、変形、伸び
ロック装置	摩耗、変形、伸び
スプリング	伸び、変形、張力低下
吊環	曲がり、よじれ、伸び
注油箇所	ピン、ボルト類の回転、スライド部分



点検整備をする時は必ずきれいに泥を落とした後、注油してください。また歯板やウス等消耗品は早めの交換をしましょう。

